読書

宇喜多の楽士

木下 昌輝 著

異色の大名 光彩を放つ

評・清原 康正（文芸評論家）

きのした・まさき　1974年大阪市生まれ、奈良市出身、作家。オール読物新人賞を受け、「宇喜多の捨て嫁」で単行本デビュー。

豊臣政権の五大老の一人で関ケ原の合戦に敗れて八丈島へ流された宇喜多秀家は、領民の暮らしを安らかにすることに心を砕いた戦国大名だった。

本書は、秀家が配流先の八丈島で心穏やかに暮らすまでの半生を描いた長編。秀家は10歳のとき、父・直家に宇喜多家の当主を継がずに出家し、悲惨な暮らしをしている流民を救いたいと訴える。弱き者に情けをかけようと葛藤する秀家に、父は着手したばかりの干拓地を見せ、民が健やかに過ごせる楽土をつくることが悲願、と打ち明ける。

著者は、娘の嫁ぎ先を攻滅ぼすなどしてのし上がった直家の謀略家ぶりを描くデビュー作「宇喜多の捨て嫁」で、直木賞候補となり注目された。宇喜多ものの第2作である本書は、心優しき俊才の秀家に直家が貝あわせの貝殻を形見として手渡す「序章」から始まる。

父の死後、11歳で宇喜多家の当主となった秀家は、信長亡きあと天下人となっていく秀吉に仕えた。秀吉の養女・豪姫を娶り、四国征伐、九州征伐、小田原攻め、朝鮮への2度の渡海などで幾度となく功績をたてたにもかかわらず、秀吉が一切の加増をしなかった理由にも触れている。

秀家は家臣の所領を扶持米などで俸給化しようとするが、家臣たちの激しい反発で追い詰められていく。

関ケ原の敗戦で落武者となった秀家は、八丈島へ配流された。10万石大名に取り立てるとの加賀前田家の誘いに秀家は…。ラストの決断に、豪姫に託しておいた父の形見の貝殻が小道具として効果を上げており、周到な仕上げとなっている。

宇喜多の国と民を守るため、時代の流れに逆らって生きた秀家には、父の悲願であった楽土を建設し、流民を救うための最善手を選び続けた自負があった。戦いに明け暮れた戦国大名の中で異色の存在として光彩を放つゆえんでもある。秀家の葛藤だけでなく、戦場での心理と戦闘などの描写を通して、戦国時代の過酷さを浮き彫りにした手腕を評価したい。

（文芸春秋・1836円）

青春のジョーカー

奥田亜希子 著

思春期の心の叫び実感

評・瀧井 朝世（ライター）

おくだ・あきこ　1983年愛知県生まれ。作家。すばる文学賞を受賞し、「左目に映る星」でデビュー。他の著書に「五つ星をつけてよ」など。

2013年にすばる文学賞を受賞してデビュー、現代人の日常の心の揺れを的確に、丁寧に描写しつつ、新鮮な価値観を吹き込む作風で着実に評価を上げてきた奥田亜希子。新作「青春のジョーカー」は、中学生の少年が主人公ではあるが、大人になってもわれわれを悩ませる「アレ」が主題になっている。

中学3年生の基哉は、教室では地味な3人組の一人。クラスのリーダー格の啓太になにかとからかわれ笑いものにされているが、決して歯向かったりはしない。憧れの同級生、咲は男子とは距離を置く高潔な存在だが、そんな彼女に対し家で性的な妄想が抑えられない自分に、基哉は罪悪感すらおぼえている。そう、先述の「アレ」とは、性欲のことである。

ひょんなことから兄と同じサークルの女子大生・二葉と知り合い、彼女と一緒にいる時に啓太と出くわしたところ、このいじめっ子は基哉が年上の女性と「経験済み」だと誤解。その後、少しずつ基哉のクラス内での評価は上昇していく。性体験の有無が人間関係における優劣を決定していくという、思春期の残酷さと滑稽さが生々しく刻まれていく。

それだけではないのが、著者の思慮深さだ。あかぬけようと必死の兄、無自覚なまま性に対し屈折している二葉、実は劣等感を抱える啓太、潔癖な咲といった、周辺人物の性に対する姿勢、さらには猫の去勢手術の問題も絡めて、さまざまな角度から、「性」に悩まされる姿を描く。これはモテない男の子の話ではなく、普遍的な内容だと思わせる。

昨今のセクハラ問題の数々を思うと、被害者を含め、大人になっても性欲に振り回される人のなんと多いことか。自身を含め「みんなみんな、セックスに翻弄されて、ものすごく憐れだ」という基哉の心の叫びは、誰もがどこかで感じているのではないだろうか。若いうちにこの葛藤と向き合う基哉は、きっとセクハラしない大人になる。そう思えるのが救いだ。

（集英社・1620円）

著者とひととき

泣きかたをわすれていた

落合 恵子さん

おちあい・けいこ　1945年栃木県生まれ。文化放送アナウンサーを経て作家に。子どもの本の専門店「クレヨンハウス」主宰。「母に歌う子守唄」「わたしの介護日誌」など著書多数。

母の介護や児童書の専門店の経営。そんな自らの経験を、「フィクション」というラベルを貼ることで、ようやく言葉にできた。

「母を見送って10年になります。もういいかな、という気持ちになって。あとは、せめて愛した人間の手でその人の記憶を残しておきたいという思いもありました」

落合恵子さんによる21年ぶりの小説の単行本「泣きかたをわすれていた」は、老境にある「冬子」が主人公。認知症の母をみとり、親しい知人を見送る中で、自身の人生を見つめ直す自伝的な物語だ。冬子が母を介護する過酷な日々は「小説だけど、ほぼ現実」。エッセーでは描けなかったエピソードも盛り込んだ。

「冬子が『いったい、いつまで続くの？』と問う場面は、小説でなければ無理でした」。母から「おかあさん」と呼ばれ、寝る前には母に絵本を読み聞かせる冬子。母娘の間で巡りゆく時間には、つらさだけでなく豊かさやおかしみもある。

老いや介護を深掘りすれば、突き当たるのは「死」という核だ。小説で婚外子として生まれた冬子は「子どもの頃、わたしが最も恐れていたのは、わたしが母より先に死ぬことだった」と告白する。

「自分が死んだら、愛する人が喪失感に苦しむ。その恐怖は、私の心の底流にもずっとあった」

しかし冬子は、大切な人を見送ることによって、その恐怖から解放されたことを知る。「いつでも死ねる」。そう思った瞬間、それまで経験したことがないほどの大きな安堵を味わうのだ。

それは、今の落合さんの実感そのものでもある。「こんな自由があったのか、という気持ち。自分の死を覚悟することはある意味絶望かもしれないけれど、そこには光があふれている。たどり着けたのはうれしいこと」

テーマは重厚だが、読後感は不思議と軽やか。「老いる」とは、若さや健康を失うばかりではなく、あえてそれらを手放した代わりに、大きな自由を手にすることなのかもしれない。そんなほの明るい思いが、胸に残る物語だ。

（「泣きかたをわすれていた」は河出書房新社・1620円）

年老いて手にする自由

新刊抄

シリアの秘密図書館
デルフィーヌ・ミヌーイ 著

幾つもの都市が封鎖され、爆撃されたアサド政権下のシリアで、がれきから取り出した本で地下図書館をつくった若者たちがいた。首都ダマスカス近郊の町ダラヤでのことだ。

トルコのイスタンブールに住む著者はインターネットで彼らに接触する。政権も、ジハード主義も批判し、自由を夢見る若者たちにとって図書館は安らぎと希望を見いだす場になった。歴史だけでなく、米国の自己啓発本からも学んでいく人々を通してシリア内乱を描くノンフィクション。

（藤田真利子訳、東京創元社・1728円）

ファクトチェックとは何か
立岩陽一郎、楊井人文 著

「ファクトチェック」と、メディアが取材・報道のプロセスで行ってきた「事実確認」は別物だと著者。「フェイクニュース」が問題となっている欧米を中心に、世界各国で重視されつつあるファクトチェックの方法やその必要性を説いていく。

第一の目的は、言説の裏付けとなるものを中立的に調査し、正確な事実を人々に伝えること。その取り組みはジャーナリストだけのものではなく、市民が参加できるもので、無用な誤解や敵意、社会的分断を減らすことにつながると訴える。

（岩波ブックレット・626円）

「通商国家」日本の情報戦略
角山 栄 著

幕末の開国を受けて明治政府は早速、市場開拓のための情報集めを始める。担ったのは各国駐在の領事。邦人保護が主務だが、合間に現地の通商情報を日本に書き送った。その領事報告を解読。彼らが通商国家日本の形成に果たした役割を追う。

ロンドン領事園田孝吉は自ら商品見本を持ち、注文を取って回ったことも。香港領事安藤太郎は日本銀貨を香港はおろか、アジア、インドまで流通させようとする壮大な構想のために動く。新興国日本のために働いた国際派官僚たちの物語。

（吉川弘文館・2376円）

じっと手を見る
窪 美澄 著

どこからでも富士山が見える町で生まれ育った日奈は、老人ホームで働く介護士。給料は安く、休日にショッピングモールで買い物するのが楽しみだ。同居していた祖父を亡くし、一人で暮らす彼女の元を、ひょんなことで知り合った男が東京から訪ねるようになる。

荒れ放題の庭の草を刈りたいと申し出た男は、既婚者でありながら日奈と関係を持つ。日奈は、東京を離れて別の地方で暮らし始めた彼を追って地元を離れる…。欠落を埋めるように求め合う人々の、寄る辺ない生を描いた恋愛小説。

（幻冬舎・1512円）

文庫往来

▷阿久悠著「無名時代」

1959年、大学を卒業した芥洋介は、東京・銀座の広告代理店に入る。文筆や創造に関わる仕事がしたい―。そんな思いを抱きながらも、まだ何者でもない洋介の社会人生活が始まった。昭和を代表する作詞家の自伝的小説。（集英社文庫・734円）

▷五十嵐貴久著「炎の塔」

女性消防士・神谷夏美の活躍を描いたパニック小説シリーズ第1作。銀座の超高層複合施設で、完成披露の当日、電気系統の故障から火災が発生する。だが社長の鷹岡は電源の停止や非常用アラームの使用を拒否。夏美は取り残された人々の救出に向かうが―。（祥伝社文庫・918円）

▷原武史著「松本清張の『遺言』」

松本清張の未完の小説「神々の乱心」と、ノンフィクション「昭和史発掘」を読み解いた論考。キーワードの一つは「弟」だ。小説は、昭和天皇に代えて1歳違いの弟である秩父宮を擁立しようとする新興宗教の教祖を描く。これに実際の皇室内の確執や女官事件などが、いかに反映されているかを検証。清張の歴史的直観の鋭さを指摘する。（文春文庫・734円）

▷佐藤愛子、田辺聖子著「男の背中、女のお尻」

「かしこくなればなるほど、男も女もかわいげから遠ざかるね」（田辺）、「大体二枚目ていうのは、かわいげないでしょう」（佐藤）。男の哀愁、女の涙、夫婦げんかに浮気の見破り方…。70年代、人気女性作家2人が男女の本質を赤裸々に語り合った対談集。（中公文庫・799円）

▷四角大輔著「人生やらなくていいリスト」

レコード会社のプロデューサーとして数々のミリオンヒットを生んだ著者は、退社して夢だったニュージーランド移住を果たす。「当たり前」や「社会のルール」を妄信せず、理想の生き方を見つける方法を説く。（講談社＋α文庫・842円）

▷林裕之著「その病気、その疲労、『隠れ油』が原因です！」

娘のアトピー性皮膚炎をきっかけに植物油の害を疑った著者が、マヨネーズなど身近な食品に含まれる「隠れ油」と、病気や疲労との関係を自身の体験をもとに解説する。食事で無理せずできる「少油生活」も提案。（知的生きかた文庫・702円）

県からのお知らせ

※各記事の詳しい内容は㊐にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

宮城県任期付職員採用選考考査

●職種・採用予定人員／土木・72人程度
※宮城県職員として採用され、宮城県または被災した市町で勤務します。なお、応募に当たっては実務経験や資格などが必要になります。
●第1次考査／専門考査（考査日：7月8日（日））
●申込期限／6月18日（月）（消印有効）まで
●任期（予定）／原則平成30年11月1日～平成33年3月31日
㊐〒980-8570仙台市青葉区本町3-8-1 県人事課☎022(211)2286
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/zinzi/

宮城県警察官採用試験・選考考査締め切り間近！

●職種・採用予定人員／①警察官（大卒・大卒見込み）・男性75人程度、女性10人程度、②武道指導・男性5人程度、女性2人程度、③サイバー捜査官3人程度
●第1次試験（考査）／7月8日（日）
●申込受付期限／6月15日（金）まで
●受験（受考）申込書／県内各警察署などで配布
㊐県警察本部警務課採用係
☎(0120)204606

火薬類取扱保安責任者（甲種・乙種）火薬類製造保安責任者（丙種）試験

●試験日／9月2日（日）
●会場／宮城県建設産業会館
●願書／下記および宮城県建設業協会支部、各消防署（局）で配布
●願書受付／6月19日（火）～28日（木）に下記協会へ
㊐〒980-0824仙台市青葉区支倉町2-48-6階　全国火薬類保安協会宮城県試験事務所　☎022(225)0931
㊐県消防課　☎022(211)2377

政策評価・施策評価などに関する意見募集

平成29年度に実施した政策・施策の評価などに関する資料を公表し、県民の皆さんのご意見を募集します。
●資料公表場所／県政情報センター、各地方振興事務所（仙台を除く）県政情報コーナー、県議会図書室（県議会庁舎）、下記ホームページ
●提出方法／6月21日（木）までに郵送（消印有効）、ファクシミリ、Eメールのいずれかで下記へ
㊐〒980-8570（住所記載不要）県震災復興政策課
☎022(211)2406 FAX022(211)2493
Eメール seisakuiken@pref.miyagi.lg.jp
http://www.pref.miyagi.jp/site/hyoka/30sei-ikenboshu.html

みやぎ花のあるまちコンクール参加者募集

花づくりや緑の育成を通じて地域づくりや人々との交流を行う団体を募集します。
入賞した団体には、賞状および商品券が贈られます。
●対象／地域や職場などの団体
●応募方法／9月14日（金）までに、応募用紙に花づくりや緑の育成をしている状況がわかる写真を添えて、持参（土・日・祝日を除く）または郵送（消印有効）により下記へ
●応募用紙／郵送により提供もしくはホームページからダウンロード
㊐〒980-8570（住所記載不要）すばらしいみやぎを創る協議会事務局（県共同参画社会推進課内）☎022(211)2576
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/subamiyaindex.html

みやぎの青少年政策モニター

県の政策課題などについて、青少年の皆さんからご意見をいただく、青少年政策モニターを募集します。モニターの方には、意見募集や担当部局職員との意見交換会をご案内します。
●対象・人数／県内在住の中学1年生から29歳までの方（平成30年4月1日現在）で、インターネットによる意見報告が可能な方・50人
●募集期間／6月30日（土）までにホームページから登録
㊐県共同参画社会推進課☎022(211)2577
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/seisyo-monitor.html

一般用医薬品販売にかかる宮城県登録販売者試験

●受験資格／不問
●試験日／8月29日（水）
●試験会場／東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
●受験手数料／1万7600円
●願書受付期間／6月4日（月）～7月3日（火）（郵送の場合は6月26日（火）（消印有効）まで）
●願書配布／下記で配布またはホームページからダウンロード
㊐県の各保健所・支所
※仙台市の保健所は願書配布・受け付けしていません。
㊐県薬務課　☎022(211)2653
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/yakumu/h30shiken.html

小児看護における家族への心理的支援についての講演会

「小児看護・家族のケアそしてきょうだいケアについて」をテーマに、無料講演会を開催します。
●日時／6月30日（土）午後2時～4時30分（受付開始 午後1時30分）
●講師／東北大学病院　塩飽　仁教授
●場所／東北大学病院歯科セミナー室（外来C棟地下）
●定員／60人
㊐小慢さぽーとせんたー☎022(273)6008（平日　午前10時～午後4時（正午～午後1時を除く））
㊐県疾病・感染症対策室
☎022(211)2636

みやぎカーインテリジェント人材育成センター研修受講者募集

自動車開発の基礎知識や電子制御など関連技術の理解を深める研修を開催します。
●対象／新潟県を含む東北7県の大学、高専、専門学校などの学生
●日程／8月8日（水）～9月6日（木）のうち17日間（講座ごとに選択受講可能）
●場所／東北電子専門学校ほか
●費用・申し込み／無料・7月13日（金）までにホームページから
㊐県自動車産業振興室
☎022(211)2533
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jidousha/car-intelli30.html

就職・転職対策は出前ジョブカフェへ

44歳以下の求職者を支援する「出前ジョブカフェ」を開催します（参加無料、要予約）。
●内容／就職支援セミナー、キャリアコンサルティングなど
●場所・日時／①大河原町駅前コミュニティセンターオーガ・6月8日（金）、15日（金）、22日（金）、②大崎市市民活動サポートセンター・6月5日（火）、12日（火）、19日（火）、③石巻サポートセンター（☎(0120)773161）・6月7日（木）、14日（木）、21日（木）、④気仙沼サポートセンター（☎(0120)215488）・6月6日（水）、13日（水）、20日（水）
●予約・お問い合わせ／①②は下記、③④は各サポートセンターへ
㊐みやぎジョブカフェ☎022(217)3562
http://www.miyagi-jobcafe.jp/

「（仮称）第3期県立高校将来構想」答申中間案に関する意見募集

県立高校の在り方に関する総合的かつ基本的な構想である「（仮称）第3期県立高校将来構想」の答申中間案について、県民の皆さんのご意見を募集します。
●募集期間／6月19日（火）～7月18日（水）
●資料公表場所／県政情報センター、県各地方振興事務所（仙台を除く）県政情報コーナー、ホームページ
※別途、地区別意見聴取会を実施します。詳しくはホームページをご覧ください。
㊐県教育企画室　☎022(211)3617
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyou-kikaku/

労働問題の解決をお手伝いします

県は、不当な解雇やブラックバイト、パワハラなどの労働トラブルについて、労働者と会社の間で自主的な解決が困難な場合に、双方の歩み寄りを目指す「個別労使紛争のあっせん」を行っています。労働問題に精通した「あっせん員」が労使双方の主張などを聴き取り、解決に向けた当事者同士の話し合いをお手伝いします。
あっせんは、労働者、使用者のいずれの方も申請できます（すでに退職している場合でも可能です）。まずは、下記へご相談ください。
●費用・申し込み／無料・電話にて下記へ
※相談内容などの秘密は厳守されます。
㊐県労働委員会事務局
☎022(211)3787
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tiroui/kobetu-assen-1.html

企画／県広報課

ABC部数は
読者が見える数字です。

合理的なマーケティング・広告活動には、正確な部数の確認が欠かせません。
ABCは、第三者機関として新聞・雑誌の部数を公査し、発表しています。

一般社団法人 日本ABC協会　新聞雑誌部数公査機構 Japan Audit Bureau of Circulations
http://www.jabc.or.jp